

パン用硬質小麦「ゆめちから」を高品質で安定生産するための栽培法を確立



背景

パン用の硬質小麦の需要は高く、「ゆめちから」の作付面積は平成24年度以降急激に拡大。
 → しかし、地域や年次による収量・品質の違いが大きく、安定栽培法の確立が急務に。

成果

1 生産安定化に向けた栽培時の目標値を設定

項目	目標値
タンパク※	14.0% (13.0~15.5%)
収量	600kg/10a
穂数	道央・道北: 580本/m ² 道東: 530本/m ²

※ パンの膨らみやすさに関与。

2 地域ごとの標準栽培法を設定

項目	方法
種まきの時期	道央: 9月中旬 道北: 9月上旬 道東: 9月下旬
必要な種の量	180~200粒/m ²
窒素施肥 (kg/10a) *	道央: 9-0-6 道北: 6-6-6 道東: 8-0-6

*窒素施肥: 地域別の窒素肥料の施肥量。地域・時期別(4月上旬-5月上旬-5月下旬)の施肥量を示している。

3 畑の特性に合わせた肥料の量を調整するための計算ツールを開発

うちの畑に最適な施肥は...?

項目	値
道央	14.5
道北	600
道東	900
窒素追肥量 (kg/10a)	0
幼形期	0
止業期	6
開花期	0

実行

予測結果	
成熟期窒素吸収量 (kg/10a)	18.3
タンパク(%)	13.9
粗麦重 (kg/10a)	638

実行

推奨窒素追肥体系 (kg/10a)	
起生期	10
幼形期	0
止業期	4
開花期	0

ツールのイメージ図

項目	値
圃場の窒素供給特性	6.6
土壌由来N (kg/10a)	6.6
タンパク基本値 (%)	11.12

栽培目標と地域ごとの標準栽培法の設定により、「ゆめちから」の収量・品質が高位平準化

畑の特性に合わせて肥料を与えることで、収量・品質が向上

期待される効果

「ゆめちから」の収量や品質が高い水準で安定することにより、その利用が促進され、さらなる需要開拓ができる。